

2025年2月7日

三愛オブリ株式会社

「コージェネ大賞 2024」理事長賞(産業用部門)受賞のお知らせ

三愛オブリ株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:隼田 洋)は、一般財団法人コージェネレーション・エネルギー高度利用センター(コージェネ財団:柏木孝夫理事長)より『温室効果ガス排出量削減活動におけるコージェネレーションの価値追求～味の素株式会社 九州事業所での改善事例～(佐賀県佐賀市)』について、「コージェネ大賞 2024」*1の最高位である産業用部門「理事長賞」を受賞し「コージェネシンポジウム 2025」において表彰されましたのでお知らせいたします。

今回の受賞にあたって評価を頂いた主な点は、以下の通りです。

◆ 天然ガスへの燃料シフト(環境負荷の低減)

味の素株式会社 九州事業所の所在地域は都市ガス導管の敷設が進んでおらず、更新前のエネルギー供給システムには重油を用いていた。今回のコージェネ導入に合わせ、三愛オブリ株式会社による都市ガス導管の延伸(全長約 10km)を実施。温室効果ガス排出量を削減するための天然ガスシフトが実現したことに加え、都市ガス導管延伸は、今後の周辺地域の都市ガス利用の可能性創出にも貢献。

◆ 最新鋭の高効率コージェネの導入(省エネルギーの更なる推進)

水素混焼可能な最新鋭機種 of 8MW 級ガスタービンと、日鉄エンジニアリング株式会社独自の 40t/h 排熱回収ボイラを主要機器とする、年間平均総合効率 93.4% のコージェネ導入。2023 年より操業を開始し、一次エネルギー削減率*2 25.1%、CO₂ 排出量約 31% 削減(2023 年度実績)を実現。

◆ 地域活性化(コージェネと地産地消の再生可能エネルギーの共存)

コージェネ発電で賄いきれない不足電力は、電力会社より購入した電力を佐賀市清掃工場由来のグリーン電力証書にて非化石化している。また、味の素株式会社 九州事業所の廃水処理設備由来の液状バイオマスは佐賀市下水浄化センターでバイオマス発電資源として活用されており、「再生可能エネルギー地産地消」の推進と「官民共同の環境価値」の構築に貢献。

(2023 年 4 月 14 日付 味の素株式会社プレスリリース引用)

上記取り組みを通じて、カーボンニュートラルに向けたトランジション期におけるコージェネレーションの1つの在り方を具現化しました。

三愛オブリ株式会社は、天然ガスによるエネルギーの高度利用により、一層の温室効果ガスの削減、環境負荷の低減に貢献してまいります。

- ※1 コージェネ大賞とは、コージェネ財団により 2012 年に創設され新規・先導性、新規技術、省エネルギー性等において優れたコージェネレーションシステムを表彰する事により、コージェネの有用性の社会的認知を図ると共に、より優れたコージェネの普及促進につなげる事を目的とした表彰制度であり、今回で 13 度目の表彰となります。民生用部門・産業用部門・技術開発部門があり、各部門において理事長賞・優秀賞・特別賞が表彰されます。
- ※2 コージェネが供給する電力と熱を、通常の商用電力と従来の熱源機で供給した場合と比較した時のエネルギー削減率。



【表彰式の様子】コージェネシンポジウム 2025(2月6日)

本件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします

三愛オブリ株式会社

エネルギーソリューション事業部 天然ガス・産業エネルギー部

TEL:03-6880-3105